



仙台平

初めて穿いたときに強く感じた、
背筋がピンと伸びるような、清々しい緊張感。
『仙台平』の素晴らしさを、身をもって感じました。

2018年7月2日、国民栄誉賞の授与式に臨んだ羽生さんが身に着けていたのが、『仙台平』。4代目当主で、人間国宝でもある甲田綏郎（こうだ よしお）氏自らが、羽生結弦さんのために糸の組み合わせを考え、染め、伝統製法にて織り上げた作品。「一流の衣は、一流の人物にこそ似合う」と甲田氏は言う。一流の境地に触れた羽生さんは、「その精緻な美しさと無駄のなさは、演技にも通じるものがあると思います」と語った。



政宗公が愛し、育ててきた仙台の伊達文化。その気風と美しさを連綿と継ぎ、職人たちは今なお技を磨き、新たな挑戦を続けている。重要無形文化財である『仙台平』は、その代表的な存在である。

——初めて『仙台平』の袴と出会ったのは、2017年の仙台市の観光PRポスターを撮影したときです。その美しい光沢に惹かれ、すべるような滑らかさ、きめの細かさにとても驚いたことを覚えています。この素晴らしい衣装に負けない立ち居振る舞いをしなくてはと思い、いつも以上に丁寧な所作を心掛けました。2018年の国民栄誉賞授与式で再び『仙台平』の袴を身に着けさせていただいた際は、改めて身の引き締まる思いがしました。

『仙台平』の糸はとても細く柔らかい。その一本一本の糸がお互いを引っ張り合っているから、しっかりとハリが生まれ、クセや皺にならないのだという。

——実際に動いてみると、本当に動きやすい。一流の能楽師の方々が「仙台平でなくては」とおっしゃる意味がとてもよくわかりました。身に着ける機会をいただいたことをとても光栄に思います。

仙台平（せんだいひら）

江戸中期仙台藩の御用織物として始まったと伝えられる最高級の絹織物。『合資会社仙台平』だけで作られており、代表の甲田綏郎氏は重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定されている。
<https://sendaihira.jp>